

浜松城 浜松市中区元城町 100-2

築城時の城主は不明だが、16世紀前半には今川支配下の飯尾が城主を務めていた。現在の城の北東部にある元城町東照宮境内にその名残を留めている。家康は駿府に攻め込んできた武田信玄の侵攻に備え、天下を取るには武田を倒さなければならないと判断、元亀元年(1570)、築城に着手し29歳から45歳までの17年間を同城で過ごす(元城の曳馬城か?)。その間には三方ヶ原の戦いで最大の敗北をした。天正18年(1590)に秀吉により家康は関東に移封されたので、秀吉の重臣堀尾吉春が城主となり現在の浜松城の原型が築かれた。江戸時代には代々徳川家とゆかりの深い譜代大名が守り、260年間に25代の城主が誕生し在城中に幕府の要職(老中5人、大坂城代2人、京都所司代2名、寺社奉行4名など、中でも有名なのが天保の改革の水野忠邦)に就いた者も多く出世城と言われるようになった(パンフ)。(城の隣地にあった小学校跡地に大河ドラマ館を建設中)



城の説明版



来年の向けドラマ館建設中



若き家康像



石垣は当時のまま



天守(工事中)



櫓



櫓と天守



天守を支える石垣



門を支える石垣と鏡石



引間城(曳馬城)本丸跡で三方が原で敗戦した家康はこの城に撤退した。



家康が最初に居城とした跡地、その後手狭になり現在の地に城を移す 出世城の元祖の地

引間城本丸跡

鎌倉時代の浜松は、「ひきま（ひくま）」と呼ばれ、町でした。現在の馬込川が天竜川の本流にあたり、西岸に町屋が発達しました。「船越」や「早馬」はこの頃の地名です。

戦国時代、この町を見下ろす丘の上に引間城が築かれます。歴代の城主には、尾張の斯波方の巨海氏・大河内氏、駿河の今川方の飯尾氏などがおり、斯波氏と今川氏の抗争の中で、戦略上の拠点となっていました。この時代の浜松には、同じ今川方で、少年時代の豊臣秀吉が初めて仕えた松下加兵衛（頭陀寺城城主）がいました。松下氏に連れられて、秀吉は引間城を訪れています。

徳川家康が最初に居城としたのもこの城です。元龜三年(1572)、武田信玄との三方ヶ原の戦いに、家康は「浜松から撤退するくらいなら武士をやめる」という強い覚悟で臨みましたが、引間城の北口にあたる「玄黙（元目）口」へ撤退したとされています。このころまで引間城が重要な拠点だったことがわかります。

その後、城主となった豊臣系の堀尾吉晴以降、浜松城の増改築が進むにつれ、引間城は城の主要部から外れ、「古城」と呼ばれて米蔵などに使われていました。明治19年、旧幕臣・井上延陵が本丸跡に家康を祭神とする元城町東照宮を勧請し、境内となっています。

平成27年1月 監修：静岡文化芸術大学 磯田道史教授

Hikuma Castle: The Remains of Old Hamamatsu Castle

This is the castle Tokugawa Ieyasu resided in between AD 1570–1586.

Hikuma was the old name for Hamamatsu. During this period, Ieyasu was one of many local lords. But, over the years, Ieyasu engaged in conflict with the other lords and eventually became the *daimyo* to unite the five provinces.

1586	1572	1570	1569
<p>しちの駿府家康が、このころに大五郎に、出陣し、世持こを</p>	<p>る。浜松城を、城を、守る</p>	<p>浜松城を、城を、守る</p>	<p>い川と、徳川家康が、武田勝頼を、討つ</p>

同説明版